



(住所) 川西町結崎68
 (祭神) 豊鋤入姫命
 (交通) 近鉄結崎駅から徒歩約15分

(拝観) 境内自由。秋祭りは毎年10月第4土日曜日。
 (駐車場) 無
 (電話) 0745・44・0434

糸井神社 (川西町)



糸井神社は大和平野の中心、川西町結崎の寺川にかかる宮前橋の北側にあり、祭神は豊鋤入姫命とよまきいりひめのみことと言われていますが、一説には、織物の神である綾羽あやば、呉羽くれはの神を祭ったとも伝わります。「糸井」という名称は、一帯が繊維関係の栄えた地域で、糸に関係した氏族が

つくったことに由来していると考えられます。

本殿は、檜皮葺ひたぎの一間社春日造で、江戸時代中頃に春日大社の若宮社本殿から移されたと伝わります。これは春日大社の旧社殿を関係のある神社に移築する「春日移し」と呼ばれるもので、春日大社や興福寺との深い関

わりがうかがえます。拝殿には、さまざまな絵馬が飾られています。特に目をひくのが1842(天保13)年に献上された「太鼓踊り絵馬」(県指定有形民俗文化財)で、多くの人が雨乞いの願をかけるために踊りをして

り、僧侶が灯籠とうろうに火をともしたりする様子も描写され、当時の生活や、神仏習合の一端を見ることが出来ます。また1868(慶応4)年の「おかげ踊り絵馬」(県指定有形民俗文化財)も8人ずつ4列に整然と並んで踊る人々の姿が描かれ、江戸時代にこの付近で盛んに踊られたことがよく分かります。

さまざままな絵馬 拝殿に

(奈良まほろばソムリエの会員 青木章二)